

 書評

ハーモニー(就労継続支援 B 型事業所) 編著

幻聴妄想かるた

解説冊子+CD「市原悦子の読み札音声」+DVD「幻聴妄想かるたが生まれた場所」付

穴水幸子

未来の医療者たちに返句を作ってもらった

私は東京で精神科臨床医として長年、仕事をしてきたが、機会があって昨年の春より医療福祉系の大学の教壇に立つことになった。学生らの意欲や意思に見合うような、目を輝かせるような教材に出会いたい。そう思っていたときに、医学書院発行の『幻聴妄想かるた』をみつけた。

『幻聴妄想かるた』は精神障害に罹病された患者さんたちが通う、東京都世田谷区の就労継続支援 B 型事業所ハーモニーの作品だ。メンバー自らの幻聴妄想による困りごとを、かるたという形態で表現したものだ。

パッケージを開いたときに驚いた。まさに「かるた」だったからである。50 音一つひとつを女優の市原悦子さんが朗々と読み上げる CD、そしてその製作の過程を収めた DVD と解説冊子が付録になっている。

札は一句一句が内容、絵ともに、たいへんユニークで楽しい。とくに市原悦子さんが高らかによどみなく句を読み上げたとき、それらは、すでに芸術品の域に達するレベルにも思えた。ただ、句は創作ではない、症状に苦しみぬいた患者さんたちが、その苦難を表現しているのだ。悩ましい幻覚・妄想・思考障害・人間関係などへの心情吐露、苦悩表現なのである。しかしこの全体の底辺に、それに対抗するかのような明るさと強さがあるのだ。

私はすぐにひらめいた。このカルタを次の学生の講義のテーマに使おう。そして患者さん方の症状理解のために単にカルタを読み上げるだけでなく、学生それぞれにも、返句を作り表現してもらおう、

と。

思春期後期にいる医療福祉系の学生たちは、精神障害者について、恐れと興味とがないまぜになった感情を抱いていた。そして自分自身も弱さに満ちた時期にいる。だからこそ、授業でかるたを 1 枚ずつ回覧し、返句を作るという課題を設定したとき、障害者の不安定で脆い心性に感情移入しつつ、自己のここを驚くような素直さで表現していった。それらは頑健な社会に潜む高邁で皮肉的な見解ではなかった。近くで温かな手を取り仲間とともに乗り越えていこうとする者の視点であった。

かるたという媒体を通じて自己表現をしようことによって、未来の精神科医療に関わる学生らと病者は、何かを紡ぎ合ったのではないか。それは言葉だけではなく。言葉を駆使すればするほど消えていくような類いのもの、安らかさとか、友情とか、楽しさとか、漠然としたものを交わし合ったのではないかと思えてならない。最後に、学生らの返句からいくつかを紹介したい。

〈学生からの返句〉

(り)理解したい あなたに起こった つらいこと
(き)きみと幻覚さん あわせてひとりの あなたです

(い)一緒だよ 私たちとあなたの あるべき世界

(あ)ありがとう カルタをつくってくれて

(わ)わたしには 見えず聞こえず でも理解

(国際医療福祉大学保健医療学部講師/精神科専門医)

●B5 解説冊子 120 頁 2011 定価 2,415 円(本体 2,300 円+税) 医学書院